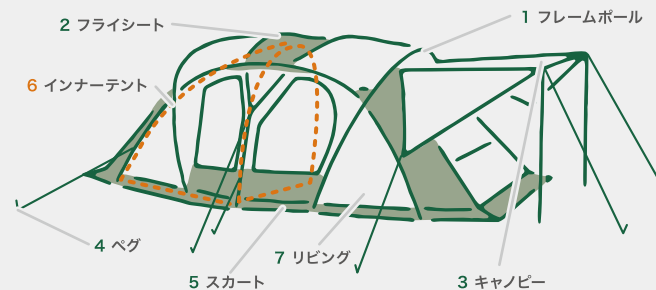


## 名称と役割 (2ルームテント)



### 1 フレームポール

骨組み、枠組み。テントの構造を支える部分で、フライシートを立体化したまま保持するためのフレームです。

### 2 フライシート

インナーテントを包み込んでいる外側の部分です。雨、風、日差しなどからインナーテントや荷物を守ってくれます。

### 3 キャンピアー

テントの出入り口のひさし部分の名称です。最近ではミニタープとして機能するようになっており、少人数なら、このスペースで調理や食事などを楽しむこともできます。

### 4 ベグ

ベグはテントを地面に固定するための抗状の器具です。テントの構造のほか地面の状態に合わせて使い分けれます。

### 5 スカート

スカートは地面とテントの間を塞ぐ、風や雨の吹き込みを抑える役割をしています。悪天候に強くなり保温性が増すので、冬用テントの多くには付いています。

### 6 インナーテント (寝室)



フライシートの内側に張るテントのことで、寝室になる部分のことです。通気性による酸欠の防止や調温、調湿の機能、さらに地面からの防水機能があります。

### 7 リビング

居間。家族団らんやくつろぐためのスペース。通常のテントは「寝室」の役割しかありませんが、2ルームテントは1つのテント内で、「寝室」と「リビング」の空間が区切られており、自宅のような快適性を得ることができます。また、近年では設営が比較的容易なものも増えており、初心者やファミリー層にも人気があります。


# 3シーズン向けキャンプ テント・タープの えらび方



## HOW TO START OUTDOOR TENT・TARP


## キャンプマスターアイテム

 **グラウンドシート**  
テントを地面の凹凸や汚れから守るシート。

 **ベグ**  
別売りのベグは丈夫で機能的なものが多く、設営が楽になります。

 **キャリーワゴン**  
大荷物を実楽運べます。

 **インナーマット**  
テントの内側を守るマット。

 **ハンマー**  
別売りのハンマーは丈夫で機能的なものが多く、ベグ抜きなどが楽になります。

 **テント用撥水用スプレー**  
テントの撥水性を保つためのスプレー。

## テントの選び方

テントの選び方のポイントは大きく3つあります。



自分がこれから行くキャンプスタイルのことを考えながら選んでみましょう。

### 収容人数・居住性

テントを利用する人数により、だいたいの大きさが決められます。

表示人数は横になれる最大人数です。

そのため表示人数から1~2人減らした人数で使用すると、ゆったり広く使えて快適です。

#### 床面積

実際の人数より少し定員の多いものを選ぶとゆったり過ごせます。



#### 高さ

快適に過ごすならテント内で立てる高さのものを。



### 自立式と非自立式

ベグやロープなしでもポールを使うことで自立する自立式、ベグとロープを使用して本体を地面に固定しないと立ち上がらないタイプを非自立式といいます。

自立式は設営場所を選ばず建てられ、非自立式はベグを何本も地面に打つ必要があり、地面の形状や固さに注意が必要ですが、フレームポールが少なめで軽量、持ち運びしやすいものが多いです。


自立式のドーム型と非自立式のワンポール型は比較的設営が楽で1人で簡単に建てるのもメリットです。



# テントスタイル

テントの役割には大きく分けて寝るための「寝室」と活動するための「リビング」があります。それぞれの空間を野外で再現するのに大きく分けて2つの設置スタイルがあります。

## 2ルームテント

テントとスクリーンタープ (  ) が一体のスタイル。雨でも出入りが楽なのが特徴。プライバシーも確保され、夏場の虫対策にもなります。そのためお子さまがいるご家庭にオススメです。機能のバランスもよく、さまざまな天候に融通が効きますが、フレームポールや生地面積が多いため全体重量が重くなっています。荷物運びが楽なオートキャンプ場での利用がオススメです。



### トンネルテント



▲ ogawa アポロン

居住空間が広く、居住性が高いテント。設営方法がシンプルでテントの中のんびり過ごしたい方にオススメです。

### 2ルームテント



▲ Coleman 4Sワイド2ルームカーブ

ドームテントとタープを合体させた1つにまとめて設営の手間を省き、収納の省スペース化を図ったタイプです。

インナーを外せばスクリーンタープとして使用できる複合機能型です。

※商品は一例です。取り扱いには店舗によって異なります。

# 生地について

生地本来の特性や機能的な生地の特徴を知って自分にあったテントを選んでみましょう。

### ポリエステル

最もスタンダードな素材です。コストや軽量性、強度などのバランスに優れており、濡れた際にも重さがあまり変わりません。

### コットン

ナチュラルな風合いがあります。空気が通る隙間があるため結露しにくく、燃えにくい素材ですが耐水性はいまひとつです。

### ナイロン

ポリエステルよりも軽いため、登山用途のウルトラライト系テントによく使われています。

### ポリコットン

ポリエステルとコットンのハイブリッドです。日本のような雨が多い地域にはびったりの素材です。

### 耐水性について

耐水圧とは、テントに浸こもうとする水の力を抑えようとする性能値のことです。500mmで小雨、1,000mmで普通の雨、1,500mmで強い雨に耐えられるとされています。耐水性にはメリットとデメリットがあります。

### 耐水圧が高いメリット

- ・激しい雨や嵐でも浸水しない
- ・冬は寒気の侵入を防いでくれる

### 耐水圧が高いデメリット

- ・通気性が悪く、結露の原因となる
  - ・夏になると非常に蒸し暑くなる
- 季節や状況に合わせて選んでみましょう。

## テント + タープ

お好みのテントとタープを選んで自分にあった快適な環境をカスタムできるスタイルです。テントは寝室のみのため、リビングになるタープを別に設営する必要があります。タープは開放感があり、自然をより近くに感じられます。パーツも少なく軽いので、オートキャンプ以外でのキャンプにオススメです。



アレンジ自由自在

開放感抜群

コンパクト

テント単品で使うのであれば「前室が広いテント」をオススメします。靴置きや荷物置きの場所として使える & 雨天時に入出入りしやすいのがポイントです。

### ワンポールテント



▲ S'more Bello 400

中央を1本のポールで支える円錐型テントです。シンプルな機構のため、覚えてしまえば簡単に設営ができます。

### ドームテント



▲ Coleman ツーリングドーム ST

軽量さと収納時のコンパクトさから主流となっているタイプのテントです。シンプルな構造が特徴。

## + タープについて



▲ snow peak エントリーバック TT



テントとタープはセットで売っているものもありますが、自分で選んでカスタムできるのも楽しさのひとつです。機能だけでなく、色を合わせたり材質を合わせたりと、見た目でも組み合わせるのも GOOD !

キャンプ前後には必ず破損や汚れがないか、チェックしましょう。

## テントを長く使うために

### ● 汚れを落とす

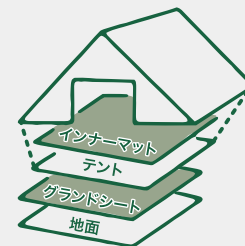
フライシートは UV 加工や防水加工などテントを機能的に使える加工が施されています。軽い汚れは濡らしたタオルなどで拭き取りましょう。ひどい汚れの場合はしっかりと洗浄して下さい。その際には使う洗剤などにも注意が必要です。

### ● 乾燥させて保管する

雨に濡れたり、手洗いで濡れたフライシートはよく乾燥させることが大切です。乾いた布で水分を拭き取り、さらに陰干しで裏表ともによく乾かして下さい。

### ● 予防 テントを破損させないために

インナーマットとグラウンドシートを使いましょう。テントが傷付きにくくなり、居住性や快適性がグンとあがります。インナーマットは、テント内に敷くシートです。絨毯のような役割で、テントの中を守ります。グラウンドシートは、テントと地面の間に敷くシートです。地面の凹凸や汚れからテントを守ってくれます。テントの底面に穴がいたりすると水が入ってきてしまったりします。



## こんなとき、どうする？

### ● 生地の破損

摩擦や熱によって穴があいてしましますが、小さい穴であればリペアシートを使って直しましょう。

### ● シームテープの剥離

シームテープは経年劣化をおこしますが、再加工が困難なため、シームコート ( 防水目止め液 ) を塗り、劣化を遅らせましょう。

### ● フレームの折れ・曲がり

キャンプ場では応急処置として、リペアスリーブで補強しましょう。その後、取り扱い店にて修理依頼をしましょう。修理期間が長い場合もありますので、次のキャンプの計画前に余裕を持って依頼しましょう。

### ● ショックコード切れ

経年劣化や、使用頻度が高ければ、必ずショックコードは切れます。新しいショックコードを購入して取り替えましょう。キャンプに行く前のチェックがとても大切です。



SWEN\_OUTDOORSHOP

@swen\_outdoor